

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	歴史文化学コース (考古学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)									
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>									
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)									
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概論的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広げる。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究方法を学ぶ講義科目や文献講読を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要なスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>		<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。</p> <p>多くの文献にあたり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねること、独自の論者にまとめることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。</p> <p>歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察力と幅広いパースペクティブを養うことができる。</p>									
専門分野のカリキュラム											
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期						
11027	地域考古学A	考古学的な分析法を学ぶ。それにより地域社会を復元する方法を学ぶ。	2~4			◎					
11028	比較考古学A	考古学的な比較法を学ぶ。それにより社会を考察する方法を学ぶ。	2~4			◎					
41801	比較考古学B	考古学的な比較法を学ぶ。それにより社会を考察する方法を学ぶ。	2~4			○					
41802	地域考古学B	考古学的な分析法を学ぶ。それにより地域社会を復元する方法を学ぶ。	2~4			○					
41803	アジア考古学A	東アジア地域の考古学を学び、その諸問題について理解する。	2~4						◎		
41804	アジア考古学B	西アジア地域の考古学を学び、その諸問題について理解する。	2~4						○		
41805	日本考古学A	日本考古学を学び、その諸問題について理解する。	1~4								◎
41806	日本考古学B	日本考古学を学び、その諸問題について理解する。	1~4								○
41807	比較文化考古学A	考古学の方法により、文化を比較する方法を学ぶ。	1~4								◎
41808	比較文化考古学B	考古学の方法により、文化を比較する方法を学ぶ。	1~4								○
41809	比較考古学演習A	考古学的な比較により、社会を考察する方法を学び、それを実際に応用できるようになる。	2~4					◎			
41810	比較考古学演習B	考古学的な比較により、社会を考察する方法を学び、それを実際に応用できるようになる。	2~4						○		
41811	地域考古学演習A	考古学的分析法を通して、地域社会を復元する方法を学び、それを実際に応用できるようになる。	2~4					◎			
41812	地域考古学演習B	考古学的分析法を通して、地域社会を復元する方法を学び、それを実際に応用できるようになる。	2~4						○		
41813	比較文化考古学演習A	考古学的な比較により、文化を考察する方法を学び、それを実際に応用できるようになる。	2~4					◎			
41814	比較文化考古学演習B	考古学的な比較により、文化を考察する方法を学び、それを実際に応用できるようになる。	2~4						○		
41815	地域文化考古学演習A	考古学的分析法により、地域文化を復元する方法を学び、それを実際に応用できるようになる。	2~4					◎			
41816	地域文化考古学演習B	考古学的分析法により、地域文化を復元する方法を学び、それを実際に応用できるようになる。	2~4						○		
41817	アジア考古学演習A	考古学的分析法を通して、東アジア地域の歴史を考察できるようになる。	2~4					◎			
41818	アジア考古学演習B	考古学的分析法を通して、西アジア地域の歴史を考察できるようになる。	2~4						○		

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	歴史文化学コース (考古学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)	コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 	<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>

学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)	コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概論的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広げる。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究方法を学ぶ講義科目や文献講読を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要なスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>	<p>過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。</p> <p>設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。</p> <p>史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。</p> <p>多くの文献にあり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることで、独自の論者にまめることができる。</p> <p>時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。</p> <p>歴史的事象との対話を繰り返すことで、深い洞察力と幅広いパースペクティブを養うことができる。</p>

専門分野のカリキュラム

科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期						
41819	実測実習A	考古学にとって最も基本的な作業であるモノの資料化に係わる基礎的技術を修得する。	2~4					◎			
41820	実測実習B	考古学にとって最も基本的な作業であるモノの資料化に係わる基礎的技術を修得する。	2~4					◎			
41821	野外考古学実習A	モノの資料化に係わる技術を修得し、発掘から報告書作成に至る作業の流れを理解する。	2~4					◎			
41822	野外考古学実習B	モノの資料化に係わる技術を修得し、発掘から報告書作成に至る作業の流れを理解する。	2~4					◎			
31001	卒業論文演習A	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野における研究課題の設定、先行研究の調査・読解の適切な方法を身につける。 ・学術論文の形式を理解する。	4	*				◎	◎	◎	
31002	卒業論文演習B	・研究計画、研究の遂行、成果の取りまとめという一連の過程を実践的に学ぶ。 ・専門分野において適切な研究計画を遂行するための技法、考え方を身につける。 ・得られた情報を総合的に考察し、研究成果を的確に報告できるようになる。	4		*			◎	◎	◎	
31003	卒業論文	・学術論文の習作と位置づけられる論文を執筆することで、自らの研究成果を公表する技法を学ぶ。 ・人文学的学問において要求される論理性や科学性の質、水準を理解し、それを充たすために必要な論述の条件について知る。	4		*			◎	◎	◎	
11001	人文学序説1	・人文諸学の専門分野で学ぶ内容の概要を把握する。 ・人文学類における学問の全体をイメージできるようにする。	1	*						◎	
11002	人文学序説2A	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・ラボラトリ(実験)、テキスト(文献読解)、サーベイ(調査と分析)、フィールド(野外実習・調査)という方法の基礎的な知識を理解する。	1		*				○		
11003	人文学序説2B	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての歴史学について、歴史資料の捉え方、研究の課題、研究方法の基礎的な知識を理解する。	1		*			◎			○
11004	人文学序説2C	・人文学類における学問の方法を学ぶ。 ・人文学の基礎的素養としての言語学・文学について、基本的な視座や研究方法についての基礎的な知識を理解する。	1		*				○		
11005	学類共通英語1	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	2		*			○			

学域名	人間社会学域
学類名	人文学類
コース名(専門分野名)	歴史文化学コース (考古学専門分野)

学類のディプロマ・ポリシー(学位授与方針)		コースのディプロマ・ポリシー(学位授与方針)					
<p>人文学類では、人間の行動・思考・創造、思想・歴史・文化・言語について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする学問(コース・専門分野)の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ以下のような学類の学習成果を上げた者とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テキストを正確に読解することができる。 2. 文化や社会、人間行動に関して、課題を発見することができる。 3. 課題を探究するために、情報収集・調査や、情報の分類・分析を行うことができる。 4. 知識を人びとと共有するために、自らの議論を説得的かつ論理的に口頭あるいは文章で表現できる。 5. 他者理解に対する高い関心とコミュニケーション能力を持つ。 6. 複数の議論を整理し、それらを総合する思考力を持つ。 		<p>歴史文化学コースでは、人間の歴史・文化・思想・言語、思考・行動・創造について考究する人文諸学の成果を学び、専門とする歴史文化学コースの各専門分野の専門知識を有し、さらには人文諸学の総合的・学際的視野を持った人材を養成する。学士(文学)の学位を授与される学生は、以上の人材養成目標に到達し、かつ学類のディプロマ・ポリシーに掲げた学習成果を上げるために、以下のような歴史文化学コースの学習成果を上げた者とする。</p>					
学類・コースのCP(カリキュラム編成方針)		コースの学習成果(◎=学習成果を上げるために履修することがとくに強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)					
<p>【学類のCP】 人文諸学の学問体系の骨格を理解できるよう、カリキュラムのシステムを構築している。入学初年次は基礎的な科目を学び、学年進行に従って応用的・発展的な科目を学ぶ。特に3、4年次生は進路に即した科目を学ぶ。</p> <p>【コースのCP】 1年次には、歴史学・考古学分野全般を概観する概念的な科目を学ぶと共に隣接諸科学の知見を広める。2年次には、歴史学・考古学研究の各専門分野の基本的思考法や研究手法を学ぶ講義科目や文献講読を中心とした科目を履修し、最新の研究状況の把握に努める。3年次には、研究対象に対して広範かつ高度な分析を行う手法を学び、さらに、自分の関心に基づいて独自の研究を行う準備を整えるための各専門分野の科目を履修する。4年次には、自分の研究を「卒業論文」にまとめるのが最終的な課題である。これに加え、各年次でそれぞれの専門分野に必要なスキルを習得するために用意された講義や演習を履修する。</p>		過去の人類の営みをたどることで、現代社会が直面する多くの問題の本質を理解し、将来を展望する能力を高めることができる。	設定した課題に対して、多様な手段を駆使して情報を収集し、必要な知見を精査、抽出できる。	史料を正確に読解し、論点を整理、要約して、口頭や文書などで報告することができる。	多くの文献にあたり、多様な学説を相互に検証しつつ考察を重ねることができ、独自の論者にまとめることができる。	時間、空間の異なる世界を考察の対象とし、多様な価値観や思考法に接することで、それらに共感し、理解する能力を高めることができる。	歴史的対象との対話を繰り返すことで、深い洞察力と幅広いパースペクティブを養うことができる。
専門分野のカリキュラム							
科目番号	授業科目名	学生の学習目標	学年	前期	後期		
11006	学類共通英語2	・人文学の諸学問を学んでいくための基礎的な英語力を身につける。 ・「学類共通英語1」より高いレベルで、英語で書かれた文献を読解し、専門分野における研究成果や考え方を英語で理解する力を身につける。	3	*			○